

「らしさ」輝く附属小



第19号 令和8年 9月18日(金) 校長 森内 秀学

好奇心を伸ばすために～重要：礼節の指導～

アメリカの元大統領夫人であったエレノア・ルーズベルトは、「もし子どもの誕生のとき、たった一つだけ最も役に立つ贈り物を妖精にお願いできるとしたら、私は『好奇心』と答えるだろう。」という言葉を残しています。好奇心をもつ大切さを表す名言です。

一方、先日、ある研究サークルの講師を務めた本校前校長 古野 祐一 先生は、講義の中で次のようなお話をされました。

「～たい」の心（好奇心）を大切にしている学校こそ、「礼儀」と「節度」を育み、立ち止まる心、相手を尊重するわきまえ等も育み続けることが大切です。

子どもの中には、「やりたい」のような前向きな「たい」と、「やめたい」のような後ろ向きな「たい」があります。この、後ろ向きな「たい」が前面に出てくるとき、相手を尊重するわきまえがなくなり、礼儀や節度が乱れます。だから、好奇心は、礼儀や節度と一緒に育てなくてはならないのです。

好奇心を大切にした教育活動は、本校に受け継がれる魂のようなものです。いきいきとした子どもたちの姿は我々職員の自慢であり、来校者も毎回その姿に驚きます。

しかし、子どもたちの様子を見てみると、中には、周りの人を大切にしていない、自分勝手な好奇心を発揮している子が見られます。そうした子は、あいさつも不十分ですし、感謝の言葉も少なめです。これでは、周りの人がどうしてもその子に対する「関わりにくさ」を感じてしまいますので、せっかくの好奇心の芽も、伸ばす機会を失いがちです。

礼儀や節度は、家庭でも育むべき重要な資質です。そして、簡単には身に付きません。好奇心は、一生の宝です。ぜひ、学校と家庭で協力して、一緒に伸ばしていきましょう。



「音」の役割を学ぼう

音楽担当として、本校に11年間勤務し、現在、常葉大学教育学部で准教授を務めている山口亮介先生が、研究の一環で来校され、5年生に特別授業を行いました。テーマは、「音のパレットで暗号をつくろう」。音楽の授業に、2030年

から始まる「情報」の視点を取り入れたらどんな授業ができるか、という先行研究です。

子どもたちは、「DTMF（デュアルトーン）」という、2つの音が重なってできている電話のプッシュ音の仕組みを、鍵盤ハーモニカやタブレットを使って体験的に学びました。そしてその中で、音の組み合わせには、「感情を揺さぶる」だけでなく、危険や到着など、「何かを知らせる」という役割も持たせることができることを学んでいました。

これから始まる「情報」の学習って、パソコンを使うだけでなく、教科の枠を超えたり教科を繋げたりして深く広く学んでいく教科なのかもしれません。楽しみですね。